

## 歴博 ぐらしの植物苑だより

第94回『植物苑観察会』11月25日(土) 13:30~ ぐらしの植物苑

「針葉樹のはなし」 斎木健一 (千葉県立中央博物館)

第11回『日本の植物文化を語る』12月26日 13:30~ 本館講堂

「花木文化の粹—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀 (恵泉女学園大学)

ぐらしの植物苑：今週の見どころ・古典菊・冬の華サザンカ ホームページ

<http://rekihaku.ac.jp>

季節の伝統植物

### 冬の華・サザンカ

11月14日(火)~12月26日(日)まで季節の伝統植物として冬の華・サザンカの展示を行ないます。11月中くらいは秋の古典菊との同時開催になります。

サザンカは沖縄—九州—四国などに自生しています。それら自生種を素材として数々の園芸品種を作り出しました。野生種は白色の花を咲かせますが、園芸品種は紅、桃、ぼかし、などさまざまで、花の形、大きさも多様です。ぐらしの植物苑ではそれらの開花期、花の形、樹性からサザンカ群、カンツバキ群、ハルサザンカ群、タゴトノツキ群にわけ、150もの園芸品種の展示をおこないます。

#### サザンカ：花の特徴

サザンカはツバキ科—ツバキ亜科—ツバキ属に属します。同じレベルにはチャノキ、ヒメサザンカ、ツバキ(ヤブツバキ)があります。ツバキに近い物としてユキツバキ、ツバキからヤクシマツバキが、また、ツバキとサザンカの雑種として考えられるものとして、ハルサザンカ、カンツバキがあります。

ヤブツバキ：紅花。おしべが筒になり、花糸は白。子房に毛がない。春に咲く。日本では南から北に咲いていく。

ユキツバキ：日本海側、山岳地帯に生育。幹はあまり立ち上がらない。花糸は黄色。

サザンカ：白花。おしべの基部が合着し、花糸は淡黄色。子房に毛が密集する。樹形は立性で、花に香りがある。日本では北から南に咲いていく。

ヒメサザンカ：小さな3cmくらいの白花を咲かせ、ツバキ属の中で一番香りが強い。

チャノキ：花口があり、下を向いて咲く。



サザンカの自生種



サザンカ展示風景



## 古典菊 肥後菊

一重咲きの肥後菊が咲き始めてきました。今までに紹介した古典菊とは違い、一重咲きなのが特徴です。花の大きさ、背丈も品種により異なります。詳しくは古典菊のホームページを御覧下さい。写真は紅不動



## ①ゲンノショウコ (フウロソウ科フウロソウ属)

山野の道端に普通にみられる多年草。下痢止めの薬として古くから使われました。すぐに効果が表れるので、現の証拠から名づけられたといわれます。写真は種子を飛ばした後で、この姿がお神輿の屋根に似ていることから、ミコシグサとも呼ばれます。



## ②ヤブコウジ (ヤブコウジ科ヤブコウジ属)

竹やぶや林床に生える常緑の矮小低木で、よく繁殖して大きな群落をつくります。また色々の栽培品種もつくられています。お正月の床の間を飾る植物としても利用されています。



## ③ナンテン (メギ科ナンテン属)

庭木として馴染みのある常緑低木です。赤い実を房状につけ、難を転ずるといい、縁起木として好んで栽培されます。お赤飯のうえに枝をおいたり、お正月の生け花にも使ったりします。



## ④ナバナ (アブラナ科アブラナ属)

花を食用にする菜名のことで、地方にはいろいろの品種があります。千葉県では黒川系寒咲花菜という、写真のナバナより葉っぱの濃い品種がありました。今はほとんどみることができなくなりました。

